

想像の共同体 —ナショナリズムの 起源と流行—

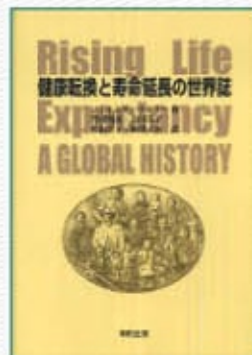
ベネディクト・アンダーソン著
白石隆、白石さや訳 リプロボート 1987
(社会科学の冒険：7)

経済学部教授 作間 逸雄

副題にあるとおり、ナショナリズムについての書物である。ナショナリズム(国民主義、民族主義)についてよくある誤解は、それが古代からあったものであるかのように考えること。もうひとつの誤解は、それが〈無知な〉大衆の心情であるとみなすことであろう。しかし、それは、第一に近代の所産であり、第二に比較的高い教育を受けたエリート層のメンタリティーとして出現した。

本書で著者は、「国民(ネーション)とは、イメージとして心に描かれた想像の政治共同体である」と論じた。ナショナリズムは国民の自意識の覚醒ではない。インドネシアの初代大統領スカルノは、「彼のインドネシアが耐え忍んだ350年の植民地主義」について語ったというが、そうではない。ナショナリズムは、「国民」の発明なのである。

我が国では、第二次大戦後、途上国・小国のナショナリズムは称揚する一方、大国のそれは非難の対象とする傾向があった。一種のダブル・スタンダードである。ナチズムが席捲する大陸ヨーロッパを命から逃れたユダヤ系の哲学者カール・ポパーが「すべてのナショナリズムは悪である」(『果てしなき探求』)と喝破したことを指摘しておこう。



健康転換と 寿命延長の世界誌

ジェームス・ライリー著 門司和彦 [ほか] 訳
明和出版 2008

経済学部准教授 永島 剛

世界の人々の平均寿命は、2000年には約67歳にまで伸長しました。しかしわずか2世紀前の1800年頃の平均寿命は、30歳に達していなかったと考えられています。もちろん、日本のような「長寿国」と、貧しい発展途上国との間には大きな開きがありますが、平均で考えれば、近代は人々の寿命が伸長した時代といえるのです。

では、なぜ平均寿命が伸びたのかと尋ねられたら、みなさんは何と答えるでしょうか。医学の進歩、という答えがすぐに浮かぶかもしれませんが。でも本書を読むと、この「常識」的な答えが、必ずしも正しいとはいえないことがわかります。人々の健康的な暮らしには、医学だけでなく、社会や経済、政治、自然環境、文化や慣習まで、いろいろなことが関わっているからです。

世界のいろいろな地域の歴史的経験にかんする情報を集め、いろいろな角度から平均寿命伸長の理由を探る本書は、たんに医学・保健に関する書というだけでなく、社会科学の書でもあり、人文科学の書でもあります。「国際」的な、そして「学際」的な学問の面白さを教えてくれる一冊です。